

展示

3がつ11にちをわすれないためにセンター(わすれん!)のプロジェクトの一部を紹介します。

3/11(火)~3/16(日) 時間 10:00-18:00 会場 1F オープンスクエア
3/18(火)~4/20(日) 時間 9:00-22:00 会場 7F ラウンジ・スタジオa
*3/27(水)はお休み

ゆるくフラットに震災について語る会

近藤日和(こんどう ひより)、清水葉月(しみず はづき)



震災をだれでも “ゆるくフラットに”語る話題に

震災当時は小学生6年生だった石巻市出身の近藤日和さんと、高校生2年生だった福島県浪江町出身の清水葉月さん。だれでも自由に震災について語る雰囲気をつくりたいという思いで配信しているオンライン番組「ゆるくフラットに震災について語る会」(通称:ゆるフラ)のアーカイブの一部を紹介します。

崩落した3月

高橋親夫(たかはし ちかお)



日記と写真でたどる、 津波の境目と避難所の日々

仙台市宮城野区で生まれ育ち、震災当時は地区の町内会長として避難所運営を経験した高橋親夫さんは、自身の体験を「崩落した3月」という冊子にまとめました。この展示では、冊子におさめられた日記と写真、そして避難所となった高砂市民センターを再訪した際の映像から、当時を振り返ります。

大川小学校とことば

佐藤敏郎(さとう としろう) 大川伝承の会



14年間の想いをたどる

楽しく遊びんでいた、大好きな大川小学校で、あの日多くの子どもと先生が犠牲になりました。佐藤敏郎さんは日々校庭に立ち、失われた風景、日常、いのちを伝えながら、その意味を考え続けています。この展示では、震災後に綴ってきた文章と写真、そしてそれらを改めて見つめ、語り直した言葉を加え、紹介します。

3.11 あのとときのホント

橋本武美(はしもと たけみ)



今だから言える・聞ける 障害児の親の声

自閉症の子を持つ親である橋本武美さんは、震災時に経験した障害児者の家族の困りごとを記録に残し、今後に活かしたいという思いから、似た立場にある親たちに会って当時の聞き取りをしています。昨年の展示で紹介したお話に加え、新たに聞いたお話を含めた十数名の方の体験談から、非日常下の生活におけるさまざまな苦労や工夫のエピソードを抜粋し、紹介します。

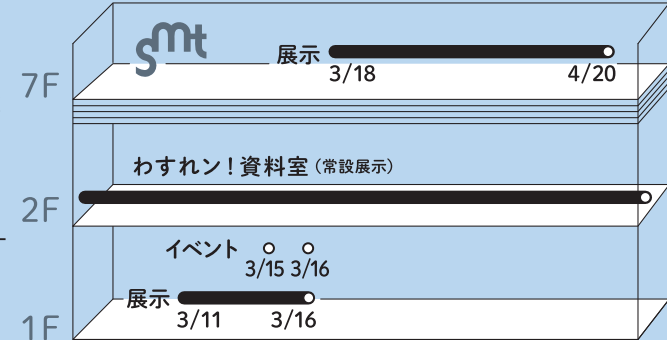
「東北と復興」を考える

自由の森学園高校 選択授業「東北と復興」メンバー



高校生が見て聞いて考えた、 東北の復興のいま

埼玉の自由の森学園高校で実施している選択授業「東北と復興」のメンバーが、2024年度の1年間の授業の中で学び考えたことを展示します。震災当時は幼かった高校生が、震災について改めて知り、学び、実際に石巻や福島を訪れて見聞きしたことや記録です。



Oshika Peninsula Rephotographed

Gary McLeod (ギャリック・マクラウド)



13年後の牡鹿半島への “再撮影”の旅

“Rephotograph (リフォトグラフ/再撮影)”を研究・実践し、その手法を用いて作品を発表してきたギャリック・マクラウドさん。「わすれん!」のウェブサイト上で2011年7月に撮影された石巻市牡鹿半島の折浜・蛤浜の写真を見つけ、2024年3月に自ら訪れました。他者の記録を読み解いて再撮影を試みる、そのユニークな視点と観察の記録を紹介します。

関連展示

まちなかの距離感 —2011年と2020年の仙台—

3.11オモイデアーカイブ/佐藤正実(さとう まさみ)



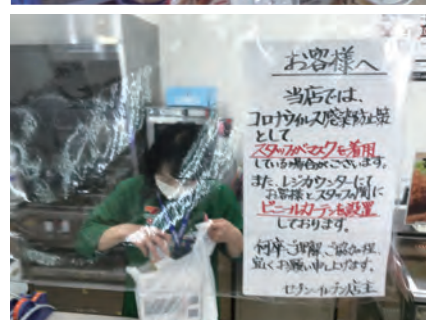
東日本大震災では、インフラが止まり物資が不足する状況の中で、普段とは違った非常時の光景が現れました。そして9年後の2020年3月11日、WHOが新型コロナウイルスのパンデミック(世界的流行)を宣言し、まちは再び非常時の様相となりました。震災とコロナ禍、それぞれの非日常の中で、市民が記録したまちなかの写真や体験談を展示します。災禍の暮らしの写真と言葉から、地域の記録を残し、記録から想起し、また伝えることの意味を探ります。

災禍の体験を語るということ —コロナ禍と東日本大震災

お茶の水女子大学の学生有志、丹羽朋子(にわ ともこ) Dialogue / Research / Trip



子どもの頃に東日本大震災を体験した学生たちの中には、当時の記憶が薄い人も少なくありません。一方でコロナ禍は、彼らにとってより身近な“災厄”の一つと言えます。コロナ禍の写真を持ち寄りそれぞれの体験を語り合ったり、さまざまな人の震災体験が綴られた「インタビューシート」を読み他者の体験に触れたりしながら、「私/私たち」の視点で「災禍の体験を語ること」について考えた、一連の記録を紹介します。



2011年の東日本大震災と2020年頃のコロナ禍において、市民が撮影したまちなかの写真を展示します。それぞれの写真には、コンビニ、スーパー、商店街、駅などの普段と違った様子が写され、2つの災禍における類似した状況、あるいは全く異なる状況が見て取れます。これらの写真から思い出しみなさんの暮らしのエピソードを、ふせんに書いて教えてください。

関連イベント

入場無料/申込不要 直接会場へ

会場 1F オープンスクエア

3/15(土)

わすれん!記録活動ミーティング —能登から/能登へ—

時間 14:00-16:30

2024年1月1日に発生した能登半島地震から1年以上、同年9月の豪雨から半年近くが経ちました。復興が遅々として進まないなか、一人ひとりの手で写真や映像、言葉などのメディアを使いながら現地の今を記録・発信しようとしている動きは立ち上がっています。そこで、わすれん!の資料の海に飛び込んで新たな可能性を探った「ダイブわすれん!」(2022年)に参加し、能登の震災後もいち早くアーカイブの構築を進めているキュレーター/アーキビストの明貫紘子氏(合同会社映像ワークショップ)をコーディネーターに迎え、それらの取り組みの一端に触れ、課題を分かち合う場を設けます。

※3月11日~16日の間、本イベントで紹介する活動や記録を1F会場にて展示します。
※ゲストなど詳細は、わすれん!のウェブサイトにてお知らせします。https://recorder311.smt.jp/information/70751/

Tokyo Art Research Lab「コミュニティ・アーカイブ・ミーティング—能登・仙台・東京(アーツカウンシル東京[公益財団法人東京都歴史文化財団])協力企画



3/16(日)

てつがくカフェ 第94回 「小さな声を重ねる —震災から14年が経過して—

時間 14:00-16:30

今年も、2月1日から3月11日のあいだ、せんだいメディアテーク1階に「モヤモヤボード」を設置します。東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故について、うまく言葉化できない漠然とした「モヤモヤ」を集めます。今回のてつがくカフェでも、「モヤモヤボード」に寄せられるいくつもの「小さな声」に耳を傾けることから、震災や原発事故についてじっくりと考えられる対話の場をひらきます。

てつがくカフェとは?

「てつがくカフェ」は、わたたちが普段当たり前だと思っている事柄から、いったん身を引離し、「そもそもそれで何なのか」といった問いを投げかけます。そして他者との対話とおして、自分自身の考えを深くすることの難しさや楽しさを体験するものです。



主催:てつがくカフェ@せんだい、せんだいメディアテーク

2F「わすれん!資料室」へもお立ち寄りください



わすれん!資料室入り口

メディアテーク2Fの常設展示スペース「わすれん!資料室」では、「わすれん!」に寄せられてきたさまざまな記録資料の一部をご覧いただけます。

資料室の開館日時は、2Fライブラリーと同じです。
平日 9:30-20:00、土日祝 9:30-18:00
/毎週月曜・3/21・3/27はお休み

3月12日ははじまりのごはん —いつ、どこで、なにたべた?—

震災当時の「食」にまつわる写真をきっかけに、当時の体験や思いなどを自由にふせんに書く参加型展示。
(協働:3.11オモイデアーカイブ)



アーカイブヴィークル

「わすれん!」の資料を詰め込んだ小さな屋台。



わすれん!録音小屋

ふたりひと組で震災にまつわるお話を録音できます(予約不要・随時受付)。



定点観測写真

震災後から撮影が続けられている東北各地の定点観測写真を展示しています。

3がつ11にちを
わすれないために



3月11日の星空と、 そこから歩んできた14年を振り返る

せんだいメディアテークは2011年5月3日、東日本大震災という大きな出来事に向き合い、ともに考えるために、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」(略称:わすれん!)を開設しました。

「わすれん!」には、市民、専門家、アーティストなどさまざまな立場の人びとが参加し、ともに震災にまつわる事柄を記録し、発信しています。

「^{みち}星空と路」は、センターの参加者による記録を紹介する展示やイベント、そしてこれまでに寄せられた記録の利活用の試みの場として、毎年3月に開催しています。個々のまなざしがとらえた記録を通して、これまでの道のりとこれからの歩みを考える時間を過ごすことができると思います。



2025
3/11 (火) — 4/20 (日)

入場無料/申込不要
会場:せんだいメディアテーク
※3月17日(月)、27日(木)はお休み



3がつ11にちをわすれないためにセンター

せんだいメディアテークが、市民、専門家、アーティストと協働し、震災とその復旧・復興のプロセスを独自に記録・発信していくため、2011年5月3日に始めたプラットフォームです。参加者は、個人個人が体験した震災を映像、写真、音声、テキストで記録します。それらの記録は、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として整理・保存され、さまざまな形で活用されています。



主催・問い合わせ
せんだいメディアテーク 企画・活動支援室
3がつ11にちをわすれないためにセンター
〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1
tel:022-713-4483 fax:022-713-4482
mail:office@smt.city.sendai.jp web:https://recorder311.smt.jp/



*この紙はリサイクルできます。

